

### デンソー山岳部 2015年度 春山合宿A報告書

■山城 北アルプス 後立山連邦 -唐松岳～五竜岳-

■日程 平成27年4月29日～5月1日

■メンバー 小田修三 (CL, 装備) 方田智貴 (SL, 記録) 吉田有希 (食料, 会計)  
亀山誠 (渉外)、 藤田勝啓 (気象)



**第1日：4/29(水) 晴れ 歩行=3H30M**

【行動記録】N1 駐車場(刈谷前夜発 19:30) 道の駅「白馬」  
 起床(6:00) ⇒ 八方スキー場駐車場 第3 駐車場(7:30) 一八方池山荘発(8:40)  
 一第2ケルン付近 1本(9:00) 一第3ケルン付近 1本(10:10) 一丸山ケルン 1本(11:10)  
 一唐松山荘テン場(12:10) 一唐松岳山頂(13:30) 一唐松山荘テン場(14:00)

4/28の19:30に刈谷を出発。恵那、梓川SAで休憩を挟みながら道の駅「白馬」に0:00前に到着。やはり、白馬までは結構時間がかかる。テントを張り、中に入りビールで乾杯して、明日からの山行の無事を願う。翌朝は6:00に起床し、7:00に道の駅を出る。天気は快晴である。大矢さんの天気予報でも行動中は晴れの予想である。晴天の中の山行を想像すると、否応なしに気分が高まる。八方スキー場の第3駐車場に車を止め、八方池山荘までゴンドラとリフトを乗り継いで登っていく。気温も高く、半袖で十分の陽気である。春山というより、もはや夏山の気分である。以前同ルートを計画し、吹雪に見舞われホワイトアウトの状態では撤退した時と全然違うなとしみじみ思いながら登っていく。第2ケルンの辺りで一本、白馬三山、さらには妙高、火打、雨飾が見える。絶景で気分が良い。好天の下、ここからさらに高度を上げていく。唐松までは結構な数のパーティが登っていた。この天候でGWなので当然といえば当然か。3時間半ほどかけて唐松山荘テン場に到着。テン場にテントは全くなかったが、他のパーティとバッティングすると嫌なのでピークに行く前にテントを張ることにした。テントを張ってピークまで空荷で登った。テン場は少し風があったがピークではほとんど風も吹いておらず心地良い。しばらく、立山や五竜の大パノラマを楽しんでからテン場に戻った。あまりにも天気が良いのでA隊メンバーはテントに入らず、外で乾杯し、春山を満喫した。  
 (記：小田)

**第2日：4/30(木) 晴れ 歩行=6H15M**

【行動記録】起床(4:00) - テン場(5:30) - 一本(7:30) - 五竜岳山荘(9:00) -  
 一本(10:15) - 五竜岳山頂(10:45) - 五竜山荘; テン場(11:45)

気温はそれほど低くなく風も無く、夜は快適に眠れた。朝食のうどんを頂き、準備を進める。昨日に引き続き天気も良く、今日の素晴らしいであろう景色に心も弾み、予定の30分前には、準備が完了。下山するB隊全員とハイタッチをし、A隊5名は、五竜岳に送りだされる。なんだか清々しい。

唐松のテン場から眺める牛耳、五竜岳までの稜線には雪がなく、アイゼンは付けずに進む。牛耳の鎖場・夏道はしっかりでているが、途中足場の狭い岩場では、冬のテント泊の荷物を詰めたザックはとにかく重く、



バランスを取り、慎重に慎重を重ね進む。岩稜帯に雪が着いていたら、ルート取りをどうするのか、厳しいルートになるなあと感じながら牛耳を抜け、なだらかな尾根歩きを楽しむ。五竜山荘手前の白岳は巻き道のトラバースを進み五竜山荘に到着。荷物を最小限にし、五竜岳山頂を目指す。山頂付近には残雪が残り、アイゼンを装着する。一部夏道の鎖場が見えており、有難く使用する。核心部はピークにあがる雪壁で、かなり傾斜がきつくと登下降はかなり厳しいが、頂上へのトレースは明瞭で、ステップも残っている。気温が高いので雪は柔らかい。ピッケルをしっかり突いて、確実に歩く。先行するパーティはいないので、頂上は貸し切りで、360度の大展望。槍ヶ岳の穂先、大きな薬師岳、立山連峰、剣岳、歩いて来た唐松岳への縦走路、北に目を転じれば妙高から雨飾山などの山々までが見えている。天気が良すぎて顔がひりひり痛い、こんな良い天気の子に登れて写真を撮るだけで下りてはもったいない気分だ。

五竜山荘のテント場に戻り「山が好き、酒が好き」Tシャツを購入し、夕食までの数時間、景色、山の話をつまみに酒を飲み、至福のひとつ時を過ごす。日が沈むドラマチックな瞬間を迎え夕食を済ませ就寝。翌日の遠見尾根ルートの下山に備える。

(記：方田)



### 第3日 : 5/1(金) 晴れ 歩行=4H15M

【行動記録】 起床(4:00)-出発(5:35)-大遠見(7:00)-小遠見(8:10)-ゴンドラ乗り場(9:30)-駐車場(10:20)-温泉(11:00)-食事(12:00)-刈谷(16:30)

本日も雲一つない天気にも恵まれ気持ちの良い朝を迎える。五竜山荘のテント場はすっかり雪が溶けていたため撤収が思いの外早く済み、予定より30分ほど早く出発できた。山荘から遠見尾根までは白岳山頂を巻くようにトレースがあり、早朝ということもあってトラバースで下山することに。ところどころ亀裂が入っているため、日が当たり気温が上がる時間はいつ雪崩れてもおかしくないような状態だった。西遠見山から大遠見山の間には6張ほどテントが張ってあった。ここは五竜岳や鹿島槍ヶ岳を眺められ、ここでのテント泊も良いなあと感じながら進んだ。時間に余裕があるため、山々を眺めながら山の話で盛り、写真撮影などをしながらのんびりペースで下る。小遠見山ではメンバー全員が山から降りるのを名残惜しむように各々山を振り返っていた。小遠見山からは雪が腐っていてズブズブと足が埋まったが、勢いに任せてリズム良く降りることができた。地蔵の頭を経てゴンドラに乗り、タクシーにて駐車場へと戻った。終日天気が良く春山とは思えないほどの陽気な天気で行くことができた。



(記：吉田(有))

#### <装備所見 小田>

縦走のため、カーボンのゾンデ棒等、極力軽量の装備を選択した。ガスボンベもL缶の満タンを2つにした。しかしながら行動時間が短く、火を着ける時間が長かったせいか、ガスが足りなくなりそうだったので念のため山小屋で一缶小さいタイプを買い足した。行動時間等も鑑みて装備計画をすべきであった。

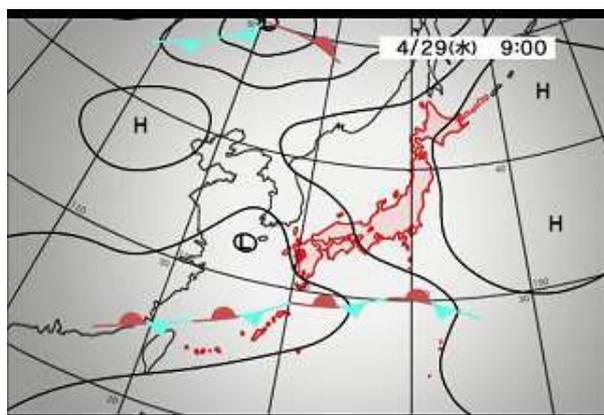
### <食糧所見 吉田(有)>

- 1日目 夜 キムチ鍋・海藻サラダ・ご飯  
 2日目 朝 力わかめうどん  
 夜 レトルト丼・ご飯・味噌汁・ポテトサラダ  
 3日目 朝 カラーメン

- ・ キムチ鍋の具として、乾燥した油揚げ、高野豆腐を使用。軽くてボリュームが出て良かった。
- ・ 乾燥マッシュポテトを使用したポテトサラダは簡単で良い。
- ・ 韓国のトッポギの餅は普通の餅より煮崩れしないため配分しやすい。
- ・ 雪で水を作るため思ったよりガスの減りが早く、五竜山荘にてガス缶を購入。ガス缶大2缶では少し心細かった。

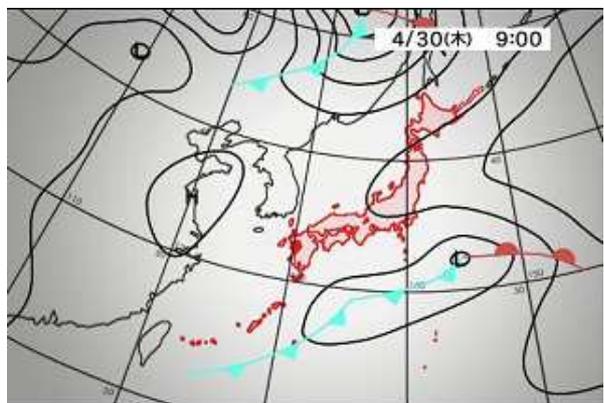
### <気象報告 藤田>

第1日目(4/29 9:00)



高気圧に覆われ、日中はおおむね晴れる。夕方ごろから唐松山荘付近は霧が発生した

第2日目(4/30 9:00)



高気圧に覆われ、広い範囲で晴れ、五竜岳頂上からは富士山や南アルプスが眺望できた。

第3日目(5/1 9:00)



広く高気圧に覆われ、風もなく快晴、汗ばむ陽気が続く

**<会計報告 吉田(有)>**

ゴンドラ代	¥14820 (往路 1550×5名 荷物 440×3名 ¥9070)
	(復路 1150×5名 ¥5750)
テン場	¥8500 (唐松山荘 900×5名 五竜山荘 800×5名)
タクシー・温泉	¥4780
交通費	¥21210
<u>食糧・ガス缶</u>	¥10690
	¥60000
1人	¥12000

**<リーダー所見 小田>**

天候に恵まれ、大変気持ちの良い山行をすることができた。たまにはこんな山行も良いものである。昨年やその前の荒天の経験があるだけに余計にありがたみを感じた。今回のルートは今後冬に挑戦したいと考え、まずは春山で設定をした。たまたま今年は雪が少なく、また天候も良かったが、雪が縦走路の岩稜に付いていた場合どうするかといった下見はすることができたように思う。さらにレベルアップすること、また雪山メンバーを増やしていき、次は冬の縦走を実現したいと思う。今回も非常に充実した山行でした。同行のメンバーの皆さんありがとうございました。

**<感想>****【方田】**

春山合宿Aパーティに初参戦であったが、3日間天候に恵まれたことも重なり、気持ちよく無事終了することができた。ただ昨年の同時期に経験した白馬岳からの不帰キレットでの撤退を余儀なくされた天候、雪の状態であったならば、どうだったのか。今回の山行では大きな課題は顕在化しなかったが、今後の登山人生を豊かに安全にするために、過去の経験を意識し、山を知り、スキルレベルを向上させていきたいと感じた。

**【吉田(有)】**

3年ぶりの合宿参加で心配だったが、雪が少なかったことと天気に恵まれなんとか足を引っ張らずに歩くことができた。春山は寒いと思い込み、厚着をしニット帽しか持っていなかったため行動中は暑くてバテそうなほどだった。寒くて厳しい春山もあれば、暖かくて穏やかな春山もあるんだなぁと感じた。唐松岳から延びる不帰嶮や五竜岳から鹿島槍ヶ岳への縦走路を眺めていると、どこまでも歩いて行きたい気分になった。合宿に参加するたびに、山の良さを実感し、行きたい山が増えていく気がする。

**【藤田】**

雨にも降られず、風にも吹かれず、好天に恵まれ強い紫外線を浴びている。唐松頂上では白馬岳から不帰キレット途中で撤退した昨年の春山を思い出す。五竜頂上では鹿島岳から八峰キレット途中で撤退した昔の春山を思い出す。欲はなく無理はせず、決して事故らず、いつも静かに笑っている。そういう山をわたしは続けたい。